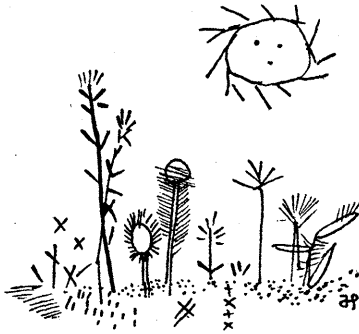


# フレーベル以後の

# 幼稚園



津  
守  
真

## 第四章 幼稚園における新教育進展の過程

一たび伝統的フレーベル主義幼稚園が崩壊して後の幼稚園の進路は、より生き生きとした教育精神の復活であつた反面、幼稚園がその孤立的性格を、また同時に独自性をも失なつて、他の教育と共通の地盤を作り上げてゆく過程である。

私はそれを三つの観点から見てゆきたいと思う。すなわち、第一は幼稚園が他の教育機関、特に小学校との連絡をつけてゆく過程、第二は教育の実際の変化、第三は幼稚園教育の原理である。第二と第三はあるいは逆にすべきかもしれないが、こゝでは便宜上この順序に従つて述べよう。

### 一、幼稚園と小学校との関係

幼稚園が他の教育系統と原理的に全く異なつたものではないとするならば、行政的にも小学校と一貫したものであつて然るべきであるという考えが識者の間に普及してきた。これは幼稚園運動のかなり初期の時代より試みられた努力であつたことは、前にも述べた通りであつたが、幼稚園改革運動はこれに拍車をかける結果となつた。教育の原理の上で幼稚園と小学校とが全く異つた地盤の上に立つものではないことは、前述した教育論争の間に明らかになつた所であつたが、なほ実際問題としては、幼稚園と小学校との連携を阻むいくつかの困難があつた。その第一は幼稚園を学校系統の一環として小学校に附設することの法律的難点であつた。この点は

次第に改良されて、米国においては一九〇〇年と一九一二年の間に公立小学校附設の幼稚園が急激に増加して、全幼稚園の八五・二パーセントを占めるに至ったことは注目すべきである。この時期は丁度、前述した幼稚園論争がほぼ結末に近づいている時期と一致していることも注意すべきであろう。もちろん此の間、法律改正にともなつて、幾多の経緯があるのであるが、我が国と事情を異にすることでもあるし、煩雑であるから、こゝでは一切割愛することとしよう。

第二の問題点は、幼稚園教員の資格とその養成に關してであつた。幼稚園が他の公立学校の系統と異つた基盤に立つものではないとするならば、教員の資格も別個のものである必要もないこととなり、この点でも教育の養成は必ずしも小学校と別のものである要のないことが主張されてきたのであつた。

先づ第一に、米国において私立幼稚園と公立幼稚園との比率が著しく變つた時期、すなわち一九〇五年から一九一三年の間に、養成機関も私立のものが減少して公立が増加した。すなわち、一九〇三年には、私立の養成機関は公立のもの三倍であつたのに、一九一三年には同数となり、一九二六年には、私立は公立の六分の一になつてしまつた。これも、幼稚園が公立小学校に統合されていつた過程の一つを示すものであろう。

第二に、幼稚園の哲学が変化するとともに、教育養成課程の

教育内容も変化すべきものであつた。すなわち、フレイベルの原理にもとづく幼稚園理論は減少して、教育心理学や社会学が重視されるようになった。そして次第に後者は前者にとつてかわつていった。

第三に、幼稚園教員の資格と小学校教員の資格との統合である。幼稚園が次第に小学校と統合されるならば、教育の資格も次第に統合されてゆくことは自然の趨勢と云えよう。そして明らかにその方向に努力がなされたのである。「幼稚園と小学校とは、相互にその仕事に興味をもつて、教師同志が互に意見を交換して教師自身の成長の機会をもち、幼稚園と小学校一年生との間に緊密な連絡をとるべきこと」が各地の幼稚園、小学校の調査の中に見ることができ、(註一)こうして、幼稚園教員と小学校教員と共通の資格が与えられる養成機関が次第に増加してきた。(第一表参照)

第一表に見るように、幼稚園—小学校共通の資格は一九二〇年来急激に増加し、一九三三年までには、「略々八〇パーセント乃至九〇パーセントの幼稚園教育養成機関で小学校の資格を同時に与え、そして尚、ナースリー・スクールの資格を与えられるところも次第に増加しつゝある。」

第三の問題点は幼稚園と小学校と

年	幼稚園 教育機関 の総数	幼稚園 の資格 を有する 数	幼稚園 と小学校 の共通 資格を 有する 数
1913	39	1	1
1922	83	60	33
1926	167	141	33

第一表 幼稚園と小学校の共通資格の増加。(註二)

の教師相互間の意見の交換であった。たとえ制度上、幼稚園と小学校とが一貫したものとなり、教育の原理としても共通の地盤をもつべきであるとされたとしても、それは直ちに、幼稚園が小学校のやり方をそのまま、行うことを意味するのでないことはもちろんである。むしろ小学校の側にこそ、尚多くの改良すべき点があったのである。そして幼稚園がそれまでの歴史を通じて、小学校の教育に影響を与えてきたし、また十九世紀末のこの幼稚園論争を通じて、また幼稚園から生れた進歩派の積極的な活動と主張を通じて、小学校教育に大きな影響を与えることとなったのである。例えば図画、工作が小学校の学科として導入されるようになったのは、直接には幼稚園の影響による所が大きかった。それが米園において一般に小学校に用いられるようになったのは十九世紀末のことである。小学校の教師はそれまで、3 R's、既ち読み書き算え方の形式的教育以外には知らなかったし、この点においては、「幼稚園は小学校の形式主義に対して大きな治療薬となった」のである。(註三)幼稚園はフレイベルの基本的理念を独占すべきではなかったし、フレイベル自身も彼の教育理念をもっと広く妥当するものとして考えていたのである。そこでキンダーガルトナーにとっては、学令を単に下げることによって幼稚園と小学校との連絡の問題が解決するのではなかった。もっと根本的な相互の理解を要求していたのである。

此の両者のそれぞれの立場からの要求をシルバートは次のように要約して述べている。(註四)

小学校から幼稚園への要求

- (1) 幼稚園の教師がもっと広い文化的教養ともっと十分な専門的訓練を受けること。
- (2) もっと広い協力的精神をもち、現実の子どもの状況に沿うようにつとめること。
- (3) 教育材料の範囲をひろげること。
- (4) 協力的精神の理解をひろげることによって、よりよき市民の養成をすること。

幼稚園より小学校への要求

- (1) 幼稚園のスピリットを導入することによって、訓練の仕方にもっと人間味を加えること。
- (2) 個々の子どもの要求を、もっと合理的に検討し、注意深い考慮を払うこと。
- (3) もっと寛容な、他人を顧みる精神を学校に導入すること。
- (4) 自治によってよき市民となる訓練をすること。
- (5) 基礎学科の教授の時間をもっとへらすこと。
- (6) 教育を、形式的な非現実的なものとしなないで、もっと現実的な生き生きとしたものとする。

こゝに挙げたそれぞれの要求を見ることによって、当時の

幼稚園と小学校の現状を想像することができるであろう。両者の要求はいづれも、改革される以前の幼稚園や、小学校を頭に描いて云っていることは明らかであろう。この後、こゝに挙げられたような要求は、相互にいれられて発展してきたと考えることができる。幼稚園の立場に肩をもつて云うならば、幼稚園運動は、たしかに上の学校系統にまで影響を及ぼしたと云える。高等学校、大学にまで及ぼした幼稚園の影響についてヒューユスは次のように云っている。「最近まで高等学校、大学の人々の意見を二つに分けることができたろう。その一つは、幼稚園は何ら教育的価値をもたないとする人々であり、他の一つは、幼稚園は極めて幼ない子どもにだけ、多少よい教育効果があったろうという人々である。しかし過去数年間に、最もよい高等学校と大学の間では、明らかに人々は覚醒しつゝある」として、自発活動、創造活動が高等教育にもとりいれられつゝあることを述べている。(註五)

こうして、米国においては、一九三〇年頃までに、幼稚園と小学校との統合が略々できあがったと見ることができるといふことは、今までの何度も繰返して述べてきたように、小学校に幼稚園が全面的に吸収されたというのではない。もしそうであるならば、それまでの幼稚園の歴史は意味がなくなってしまうだろう。むしろ幼稚園の中にできてきた教育の形が、小学校に影響を及ぼし、小学校を変化させたことも大きいのである。こうして米国において幼稚園と小学校とが行政的にも

統合されたが、それは単に表面的な統合ではなく、幼稚園の教育が小学校教育の中にまでしみこんだのであることを注意せねばならない。

- 註一 White, M. G.: Kindergarten in Certain City Surveys. U. S. Bur. Educat. Bull., 1926, P. 1~44
- 註二 Davis, M. D.: General Practice in Kindergarten in the United States. N. E. A. Monograph, 1925, P. 1~155  
Davis, M. D.: Kindergarten Primary Education. U. S. Office Educat. Bull. 1930. No. 30, P. 1~41
- 註三 Hailman, W. N.: Opening Address. N. E. A. 1887, 332~334
- 註四 Gilbert, G. C.: The Kindergarten in the Public School. N. E. A. 1897, P. 603~613
- 註五 Hughes, J. L.: The Influence of the Kindergarten Spirit on Higher Education. N. E. A. 1896, 378~391

x x x x

x x